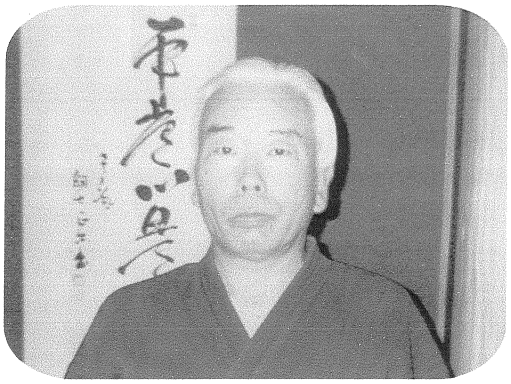
（会員特別寄稿） 教士七段　山下　治義　先生

「毎日が一期一会」



私が、天草東高校に勤務していた頃のことです。ある日、当時住んでいた教職員住宅から朝出かける際に、右手に鞄を持ち、左手でリンゴを１個掴んで口に入れようとしたら、ポトリと落としてしまいました。もう一度食べようとしても、また落としてしまいました。それを見ていた妻が私の腕を抱えながら隣の部屋に連れて行き寝かせてくれました。まもなく救急車が来て、中西病院に担ぎ込まれました。中西病院長は、ご存知の方もおられると思いますが、当時剣道教士五段で天武館でよく稽古をつけていただいた先輩です。その日の夕方から意識不明となり、最高血圧も５０に下がって、妻は親戚を呼んだそうです。３日後に幸い意識は回復しましたが、意識が回復した私に中西院長先生は「濱洲君（私の旧姓）、三途の川を行ったり来たりしたね。」と言われました。診断は脳梗塞です。一時は生死の境をさまよいましたが、医師、看護師、家族、親戚、知人など様々な方から温かい支援を受け、何とか一命だけは取り留めました。一時は、言語障害、半身不随となりました。当時は、天草にはＣＴスキャン等の設備もなく、熊本のいろいろな病院で診察・治療を受け、最後には、水俣の湯の児病院で言語訓練、理学作業療法を毎日懸命に受けました。その結果、病状もかなり回復し、復職辞令をいただくことができました。この時はリハビリの大切さを身をもって知ることができました。復職辞令は出ましたが、辞令には学校長預かりと記してありました。その時の学校長は野口虎八先生（当時剣道六段）でした。天草東高校では、リハビリを兼ねて剣道場で居合いの稽古に励みました。居合いの稽古中に左手を４針縫うけがをしたこともありました。その後、どうにか東高校の生徒や有明東中の生徒を相手に稽古ができるようになりました。やがて、天草農業高校（現在苓明高校）に転勤となり、１０年間の勤務期間中に六段を取得することができました。その後、苓洋高校での４年間をもって定年退職しました。５９歳で教士七段に合格することができました。それからの１０年間は、剣道三昧の生活を送ることができました。７０歳からは、療育音楽が脳神経を活性化させ、認知症予防にも効果があると聞いたので、天草市介護ボランティアとして登録させてもらい、介護施設で心のケアを必要とする人たちと一緒に、明るく、楽しく、幸せなひとときをハーモニカ演奏をとおして心が癒されるように、ボランティア活動をさせていただいております。介護施設では、演奏が終わって帰ろうとすると、私の手を握って、涙ながらに「また来てください」と言われることもあります。介護施設に入所しておられる方々は、戦争を体験し、戦後の日本をここまで復興させていただいた大先輩です。この様な方々との「一期一会」を大切にし、逆に元気をいただきながら、今後も更に精進していきたいと思っています。

私は、大病を患っていなければ、八段に挑戦するのだが・・、剣道の理念とは何か・・と考えている今日この頃です。

最後に、園田直先生（教士七段、元外務大臣、故人）が推薦されていた小沢丘範士九段の著書「剣道の書」からの抜粋を紹介します。

「剣道は、伝統を重んじると共に、自己の品性を高め、社会に貢献することを目的とし、最終的には人心の開発、救済に寄与するものである。」

山下治義先生のプロフィール
生年：昭和１０年
出身地：佐伊津
現住所：本渡町
剣道との出会い：国民学校（満州）
職歴：中学校、高校教諭
趣味・特技：居合い、ハーモニカ（７０歳から始める）
天剣連会員へのメッセージ
継続は力なり、平常心

編集後記

天草剣道連盟の広報誌「剣道天草」が諸事情により休止しておりましたが、天草地区の剣道の普及・発展には、広報誌の発行は不可欠であると考え、天草剣道連盟会報「あまけんれん」を発行することにしました。「剣道天草」が業者印刷による本格的な新聞で年１回の発行だったのに対して、今回から発行する「あまけんれん」は、Ａ４版表裏印刷１枚（今回は挨拶や特別寄稿等のため３ページになりましたが）の簡易な形式のもので、年３回程度発行していきたいと思っています。行事や試合結果、会員の寄稿等を中心に掲載したいと思っていますので、会員のみなさんのご協力をよろしくお願いします。（今回は福本会長を始め、多くの方々に原稿をお願いしましたが、みなさん快く応じていただき、ありがとうございました。）次回は１１月発行予定です。